

A・MUSEUM

vol.41
[2004.12.25]



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



開館10周年記念式典でお言葉を述べられる常陸宮殿下



化石のクリーニングを御覧になる常陸宮同妃両殿下

常陸宮同妃両殿下御来館

11月13日(土)午後、当館の開館10周年記念式典に御臨席のため、常陸宮同妃両殿下が来館されました。

1階の入口付近には、両殿下のお姿をひと目見ようと大勢の人が出迎えました。両殿下は、車から降りられるとすぐに声援にお応えになりました。

記念式典では、常陸宮殿下から当館の10年間の活動に対し、「自然に対する正しい知識や子どもから大人まで楽しみながら環境の学習ができる機会を提供し、素晴らしい成果を上げている」とのお言葉をいただきました。

その後、野外施設に向かわれ、開館時にお手植えになられたスタジイの木、自然発見工房で化石のクリーニングを御覧になりました。夕方には、記念レセプションへの御臨席と開館10周年記念企画展を御覧になりました。

(企画課：森田 修)

開館10周年記念式典

前日の雨から一転して快晴となり、富士山がくっきりと眺められた11月13日（土）茨城県民の日、当館は開館10周年の日を迎えました。

午後1時30分からの記念式典には、開館式典以来、10年ぶりに常陸宮同妃両殿下に御臨席いただきました。会場の3階映像ホールは、県内外の教育及び博物館関係者や当館の運営協力者などの招待者約240名でほぼ満員になりました。特に、海外から姉妹館である中国・内蒙古自治区博物館の邵清隆館長、アメリカ・ロサンゼルス郡立自然史博物館ジェーン・G・ピサノ館長、友好館であるニュージーランド・テパパトンガレワ国立博物館セドン・ベニントン館長、韓国で博物館建設に尽力されている自然史博物館研究協会イ・ビョンフン会長が出席され、国際色豊かなものとなりました。



茨城県立土浦第二高等学校合唱部の皆さんによるコーラス

オープニングでは、茨城県立土浦第二高等学校合唱部の皆さんによる県民の歌、茨城が生んだ詩人野口雨情の童謡（七つの子、シャボン玉）等に参加各国の歌を盛り込んだメドレーがすばらしい歌声で披露され、緊張した雰囲気の中を心打つ感動のシーンへと誘っていただきました。続いて、博物館に隣接する岩井市立七郷小学校の4年生児童10名による会場の皆さんへの「よびかけ」の形で開式の言葉が行われました。「僕は、3歳の時に初めて博物館に来て、魚や恐竜を見ました。とても広く、夢のような所だなと思いました。」「私たちの大切な自然博物館をこれからも応援していきます。」という子どもたちの言葉に会場全体が和やかなムードに包まれました。このように式典は、厳かな中にもすばらしいコーラスと子どもたちの明るい声で始まりました。

次に、橋本知事が式辞において、当館は子どもにとっては、自然とふれあい豊かな人間性を育む場、大人にとっては、生涯にわたり自然環境を学ぶ場として重要な役割を果たしてきたことを踏まえて、今後は、高度情報

化や国際化など急速に進展する社会変化への確に対応した運営を行うため、国内外の博物館とのネットワークを構築していくことが重要であると述べました。



岩井市立七郷小学校児童の皆さんによる開式の言葉

続いて、常陸宮殿下のお言葉、来賓の方々から祝辞をいただきました。

次に、中川館長が謝辞を述べ、開館からの10年間「過去に学び、現在を識り、未来を測る」という当館の基本理念のもとに地域に密着した博物館運営が広く市民に受け入れられたことに深く感謝の意を表しました。



中川館長謝辞

最後に、橋本知事から各国の館長さんたちへ、今後も博物館のネットワークを深めるとともに、当館の運営に関する良きアドバイザーとなっていただくように「海外アドバイザー」の委嘱状が交付されました。

記念式典を無事に行えたことに加えまして、サイエンスデーのこの日、約7,000人の来館者の皆さんと一緒に開館10周年を迎えられたことが二重の喜びとなりました。

これで、当館10年の歴史にひと区切りができました。今日からは、また新たな歴史が皆さんと一緒に始まります。（企画課：森田 修）

環太平洋博物館国際シンポジウム

開館10周年記念式典に続いて、翌日の11月14日(日)、会場をつくば国際会議場大ホールに移して環太平洋博物館国際シンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、「自然とともに 市民とともに」をテーマに、海外の姉妹館、友好館の館長を招いて、新しい時代の博物館の姿を探ることを目的としました。また、午前中は特別企画として、「博物館と私」をテーマに、博物館で活動する日米の中高校生によるジュニアフォーラムが開催されました。

当日、シンポジウムの会場には「あなたの参加で博物館を変えよう!!」の呼びかけに530名を超える人が集まりました。特筆すべきは、参加者の過半数が県内の大学生や高校生であったことです。博物館学を学び、自然科学に興味をもつ多くの学生の参加は、このシンポジウム開催の意義を大いに高めてくれました。



満員の会場の中での国際シンポジウム

ジュニアフォーラムの発表は、ロサンゼルス郡立自然史博物館、大阪市立自然史博物館と当館の代表者によって行われました。それぞれのグループはジュニア2名と担当職員1名の3名です。ジュニアの発表のようすとみると、大阪の平野君は、貝類、特に陸貝の研究者で、自分の研究はもとより、博物館の観察会や展示にまで貢献したようすと発表してくれました。また、ロサンゼルスのレイチェル・アロノウィッツさんは「私は、法律を勉強して将来は弁護士になりたいと考えています。博物館は私にとってインスピレーションの場であり、得難いすばらしい経験ができる場所です。これからも関わりをもっていきたいと思います。」という内容の発表でした。彼女の博物館への関わり方は、多くの中高生や大学生にとって、とてもいい参考になるのではと思いました。各館の発表のあと、会場からの質問や意見を交えて活発な総合討論が展開されましたが、当館の菜花君からの「博物館は堅苦しいところではなく、自分のしたいことを叶えてくれるところ。もっとみんなに博物館を利用してほしいし、全国に僕たちのような経験のできる博物館が増えてほしい。」という発言には博物館関係者は皆勇気づけられたことと思います。



ジュニアフォーラムでは活発な総合討論が展開されました

午後の国際シンポジウムは、高校生のトリオによるすばらしい音楽の演奏で開幕しました。まず、中川館長による開催趣旨説明に続いて、ロサンゼルス郡立自然史博物館のジェーン・G・ピサノ館長と内蒙古自治区博物館の邵清隆館長から各姉妹館の新しい取り組みが紹介されました。次に、ニュージーランドのテパトンガレワ国立博物館セドン・ベニントン館長による自然とともに生きる先住民マオリ族の文化を継承しながら、新しいタイプの博物館活動を展開しようとしている話、そして、韓国自然史博物館研究協会イ・ビョンフン会長による韓国そして東アジアにおける自然史博物館整備の立ち後れとその必要性についての話は、それぞれに強く迫るものを感じました。

シンポジウムの締めくくりは、中川館長による「いばらき宣言」の発表であり、その姿は、今後の各館の連携のさらなる発展を約束しているようでした。

いばらき宣言の骨子

- 地域の自然史情報の蓄積と活用
- 市民とともに展開する博物館活動
- 環太平洋博物館ネットワークのさらなる拡大
- 次世代を担う自然を愛する子どもたちの育成

(企画課：小幡和男)



シンポジウムは「いばらき宣言」の発表で締めくくられました

世界の恐竜学者を招いて恐竜イベントを開催！

開館10周年記念企画展の開催を記念して、9月19日(日)、20日(月)に、恐竜イベントを開催しました。

このイベントには、記念企画展の開催に深く関わっている国内外の恐竜研究者を招きました。企画展の共同主催館である中国・内蒙古自治区博物館からは、文化庁の蘇俊氏・博物館員の孫燕氏・張慧媛氏、中国地質科学院(北京)からは、中華竜鳥などの発見者であ

る季強博士、ベルギー王立科学アカデミーからは、内蒙古自治区での恐竜発掘に携わり、イグアノドン研究で著名なパスカル・ゴッドフロア博士、そして日本からは、北陸地方での恐竜発掘に長年携わっている福井県立恐竜博物館の東洋一博士が出席しました。

(資料課：小池 渉)

世界の恐竜学者が答える恐竜Q&A(9月19日(日)、会場：映像ホール、参加者160名)

- 素朴な質問が子どもたちから次々と -

このイベントでは、子どもたちが恐竜について「なぜ? どうして?」とふしぎに思っていることを、恐竜研究者たちに次々と尋ねました。「恐竜は何種類いたの?」「恐竜の寿命はどのくらい?」「恐竜はなぜ、絶滅したの?」「恐竜発掘は楽しいですか?」など、会場からのさまざまな質問について、恐竜研究者たちは丁寧に答えてくれました。「どうしたら恐竜学者になれますか?」との質問には、季強博士が基礎学力と探求心の大切さについて熱意を込めて答えたのが印象的でした。

イベント終了後には、恐竜博士たちのまわりにサインや記念写真をお願いする子どもたちが集まり、世界の著名な恐竜博士とのまたとない交流の機会となりました。そして、恐竜の世界が身近なものとして関心が高まった様子がありありと感じられました。



(上) 会場の様子
(右) 恐竜について質問!

開館10周年記念恐竜シンポジウム「恐竜の足跡をたどって - 中国 そして日本 - 」

(9月20日(月)、会場：セミナーハウス、参加者36名)

- さまざまな視点から見た恐竜 -

5人のパネリストによる講演の内容はさまざまで、それぞれが異なった視点から恐竜について論じました。孫氏は内蒙古自治区での恐竜発掘の現状について、季博士は羽毛恐竜の発見とその後の恐竜から鳥類への進化説の展開について、ゴッドフロア博士はシベリアで発掘されている白亜紀末期の恐竜とアジアでの恐竜絶滅について、東博士は手取層群及び福井県勝山市での恐竜発掘について、そして当館の滝本首席学芸主事は恐竜が生息していた頃の日本から中国にかけての植物相の分布と古環境について講演しました。

英語、中国語については逐次通訳で進めたために、時間がやや足りなかった面もありましたが、世界で最先端を進む研究者の話を直接聞くことができ、参加者は満足した様子でした。



(上) ゴッドフロア博士による講演
(左) 恐竜シンポジウムのパネリスト(敬称略)

左から、孫燕(内蒙古自治区博物館)、季強(中国地質科学院)、東洋一(福井県立恐竜博物館)、パスカル・ゴッドフロア(ベルギー王立科学アカデミー)、滝本秀夫(当館)、国府田良樹(当館、司会)



開館10周年を記念しての出版物

当館では開館10周年を記念し、さまざまな出版物を作成しました。10周年記念誌として当館、友の会、ボランティアの各記念誌を作成したり、10年前に作られた展示解説書を刷新したり、これまで収集した収蔵品の総目録をCD-ROM化したり、今後の10年間の当館が進むべき計画をまとめたりというものです。これらの出版物により、これまで10年間の当館の歩みを記録として残すことができました。

記念誌 3部作

開館10周年を記念して、開館10周年記念誌を3冊刊行しました。当館の記念誌、友の会の記念誌、ボランティアの記念誌です。

この3冊の記念誌は、統一したデザインを採用することで、お互いに連携し合って博物館の機能を支える3者の関係を表現しました。このように3部作を同時に出版するという試みは、非常にまれなことです。

この3冊が、当館が最初に歩んだ10年間を記録した公式資料として、今後さまざまところで活用されることを期待しています。



「博物館10年のあゆみ」は、ミュージアムショップで500円で販売しています。

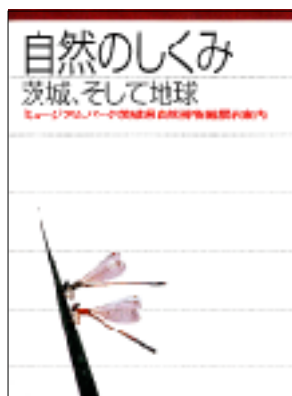
展示案内「自然のしくみ」

当館の展示案内「自然のしくみ 茨城、そして地球」は、ニッセイ財団の助成を受け、本年8月に刊行することができました。既に県内の小・中・高等学校・図書館等にお送りしましたし、ミュージアムショップでも販売しておりますので、目にされた方も多いのではないのでしょうか。

開館して10年の節目に当たる年に、助成を受けて展示案内を作成することができたのは、これまで行ってきた私たちの博物館活動が一定の評価を受けたと考えられます。美しい写真と斬新なレイアウト、そして何と言っても学芸員のわかりやすい解説を掲載した展示案内の内容は以下のとおりです。ぜひご一読ください。

身近な自然をさぐる
菅生沼の自然
地球の生いたちと未来
ヌオエロサウルス
メタセコイア
ミュージアムパークの
野外施設

ミュージアムショップで380円で販売しています。



進化基本計画

当館は、開館10周年を機会に、これまでの足跡を振り返り、現状を把握し、今後の10年に向かって当館が新たな出発をするための基本的な枠組みを作りました。これが「茨城県自然博物館進化基本計画」です。

これは当館の理念である「過去に学び、現在を識り、未来を測る」に沿ったものです。

当館は、この基本計画に基づき“自然と共生し、市民と協働する博物館”へと進化させていきます。



自然博物館収蔵品総目録CD-ROM

当館に収蔵されている資料は、開館の20年も前から有志によって収集されていた自然史系の地域資料を始め、開館以来継続している茨城県内の総合調査研究によってもたらされた資料や、寄贈・寄託された資料等で大変貴重なものです。

これらの収蔵品の中で、当館で登録が済んでいる約12万点（植物約8万点、動物約3万点、地学約1万点）についての目録と一部の収蔵品の写真データをCD-ROMに収録しました。



輝かしき第一歩 建設ストーリー

当館ができるまでには、様々な人々が関わりを持ち、博物館建設にあたってきました。その間、多くの方々の方ならぬご苦労があったと思われます。

開館10周年を迎えるにあたり、10周年記念誌では語り尽くせない、博物館建設準備室の活動記録を中心として別冊記録に編集したものがこの「輝かしき第一歩」です。（教育課：樁本 武，資料課：久松正樹，企画課：村田太郎）



博物館を恐竜一色にそめた「わたしの大好きな恐竜」

この秋、博物館に足を運ばれた方は、館内いっぱいにかざられた恐竜の絵に驚かれたのではないのでしょうか。その数、なんと、2,223点。あちらこちらで、お父さんお母さんと一緒に自分の作品を探す子どもたちの姿が見られ、見つけると、みんな大喜びで記念写真を撮っていました。



恐竜画の展示風景

これらの恐竜の絵は、開館10周年記念企画展「恐竜たちの足音が聞こえる 中国そして日本」を記念して実施したイベント「わたしの大好きな恐竜画・イラスト展」に応募してくれた方々の作品です。当初、どのくらい作品が集まるか不安だったのですが、締め切りが近づくにつれて、多い時で1日200通を超える応募があり、今度は、全ての作品をどのように展示しようか、まさにうれしい悲鳴！館内のありとあらゆる壁や柱を使っ

て、なんとか全作品を展示することができました。

応募してくれたのは小学生が中心でしたが、3歳から大人の方まで広範囲にわたり、その応募数とともに恐竜人気のすごさをあらためて実感しました。

この作品の募集期間には、恐竜を主人公にした漫画「DINO² (ディノ・ディノ)」を描いている漫画家 所十三氏を講師に迎え、「恐竜の描き方講座」を実施しました。所氏からは、復元骨格やそれからわかる生態についてよく調べて描くことの大切さなど、イラストを描く上でのポイントについてお話がありました。

さて、応募作品をもとに大好きな恐竜ベスト10を決めました。やはり1位はティラノサウルスで、その主な理由は、「一番強い」「かっこいい」でした。

順位	恐竜名	得票数
1	ティラノサウルス	430票
2	トリケラトプス	175票
3	ブラキオサウルス	149票
4	プテラノドン	144票
5	ステゴサウルス	131票
6	スピノサウルス	62票
7	アバトサウルス	57票
8	アロサウルス	56票
9	パラサウロロフス	35票
10	ディノニクス	30票

どこを見ても恐竜だらけ。10周年の企画展にふさわしい雰囲気をご参加いただいた皆様のおかげで作り上げることができました。この場を借りてお礼申し上げます。(資料課：栗栖宣博)

押し花の魅力発見！ - 課題植物押し花絵コンクール -

当館では、課題植物押し花絵コンクールを毎年開催しています。第8回を迎えた今年のテーマは「博物館の風景」です。博物館の展示室内、野外施設、菅生沼としてイメージの世界にいたるまで、工夫を凝らした作品が集まりました。作品は11月3日(水)から1月10日(月)まで第3展示室前にて展示しております。

そして今回は、開館10周年を記念して、押し花絵作家の小林きぬ氏に特別出品をしていただきました。作



特別出品「菅生沼」

(作：小林きぬ)

品の横の長さが1メートル近くになる大型作品で、水鳥の舞う菅生沼が詳細に表現されています。

(教育課：戸来史絵)



館長賞
「過去・現在そして未来へ」
山中洋子さん

館長賞	山中 洋子	過去・現在、そして未来へ	一般の部
副館長賞	風見 純子	博物館のシンボルはぼくだゾォ!	一般の部
優秀賞	古矢 光枝	あっ自然博物館だ! - ケムシたちの発見 -	一般の部
優秀賞	松枝 敦子	ティラノサウルスの顔?	一般の部
優秀賞	皆川 凌	水そうの中の魚	小学生の部
優秀賞	秋葉 雅人	森でねてるふくろう	小学生の部
優秀賞	飯島 勇人	ねずみのつなわり	小学生の部

館職員レポート ● ICOM世界大会に参加して 小幡和男(企画課)・山崎晃司(教育課)

今年の10月に ICOM世界大会が韓国のソウルで開催されました。

ICOMとは、フランスのパリに本部を置く国際博物館会議(The International Council of Museums)のことで、国際的なレベルでの博物館の発展に寄与している NGO です。1946年に設立され、147カ国に約15,000人の会員を有しています。

ICOM世界大会は3年に1度開催されていますが、アジアでの開催はこの大会が初めてとなります。今回のテーマは「博物館と無形文化遺産(Museums and Intangible Heritage)」です。世界の博物館は有形文化遺産とともに、無形文化遺産にも領域を超えて取り組む必要があるということです。

大会は2004年10月3日から8日にかけて開催され、当館からは小幡と山崎が、4日から6日の3日間参加しました。

大会はソウル市三成洞にあるコエックス(COEX)を会場に開催され、約2,000人の参加者を集めました。日本からは約60人が参加しました。

ここで大会に参加した様子を報告します。私たちは3日に行われた開会式や関連のイベント、7日の見学会(エクスカーション)、8日の閉会式には参加できなかったため、全体的な大会の雰囲気を知ることはできませんでしたが、各部門に別れた専門委員会のうち、自然史委員会と教育文化委員会に参加することができました。

自然史委員会には、約50名ほどの参加者があり、活発な議論が行われました。委員会の口火は、韓国自然史博物館研究協会会長イ・ビョンフン氏によって切られ、協会として取り組んでいる国立自然史博物館建設の必要性和その困難な状況が説明されました。

イ氏には、当館が11月14日に開催した環太平洋博物館国際シンポジウムでも発表いただきました。



ICOM(右)とソウル大会(左)のマーク

自然史委員会では、博物館の見学会も用意していただき、昨年開館した西大門自然史博物館、当館で開催した企画展「コリアの自然史」で大きな協力をいただいた梨花女子大学校自然史博物館を訪問する機会に恵まれ、手厚い歓迎を受けました。

教育文化委員会では、当館の教育普及の助言者でもある常磐大学水嶋英治教授の「日本における博物館教育の概要」という発表があるなど、日本からの発表者が目立ちました。

大会全体を通じて、各発表者が、いずれも興味深い発表を行い、特に韓国の発表者の内容はどれも秀逸で、内容の精選と準備の周到さには感銘を受けました。また、すべての関係者の対応が丁寧で、ホスピタリティにあふれており、すばらしい大会でした。この場をお借りして関係者の方々に心から感謝の意を表します。



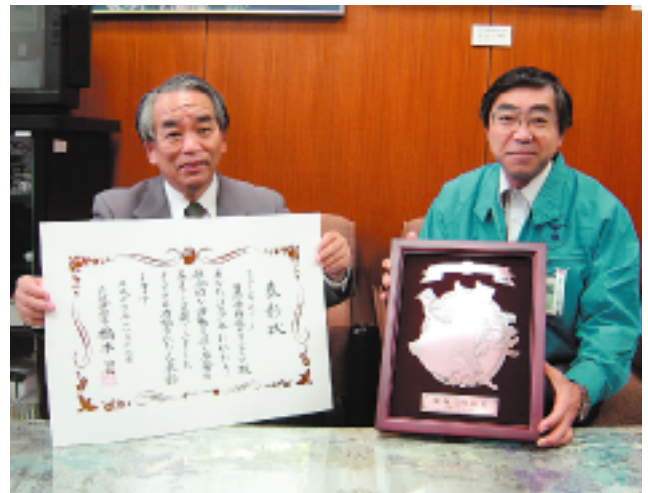
自然史委員会で発表するイ・ビョンフン氏

当館ボランティア 茨城県表彰「功績賞」を受賞

茨城県では、毎年、県の名声を高めるとともに広く敬愛され社会に明るい希望を与えた方(団体)や、社会の進歩発展に著しい功労・功績があった方(団体)を表彰しています。

今年度の表彰で、当館ボランティアが「功績賞」を受賞いたしました。これは、当館ボランティアが「10年という長きにわたり、自主研修会等により自己研鑽に努めながら、市民と協働する博物館の実現を図り、地域の生涯学習の推進に寄与した」との理由によるものです。

11月12日(金)、県庁講堂において行われた表彰式典では、当館ボランティアの今村代表が、橋本知事から直接表彰状を頂いてまいりました。(教育課:高橋 淳)



今村代表が中川館長に受賞の報告をしました

「サーベルタイガーとネコ類の進化コーナー」完成！



ロサンゼルス郡立自然史博物館のピサノ館長（後列右から2人目）をお迎えし、岩井第一幼稚園の園児が参加した除幕式

開館10周年を記念して、第2展示室にサーベルタイガーの全身骨格標本を常設展示しました。これは、姉妹館であるロサンゼルス郡立自然史博物館より長期借用しているものです。この標本は、すべて実物の化石を用いて組み立てたもので、このような実物の全身骨格標本は世界でも5体しかなく、大変貴重です。

この全身骨格標本は、これまででも特別展示としてタールピット（天然アスファルトの池）に埋もれた他の動物化石とともに期間限定で展示したことがあります。しかし、今回は、ネコ類の進化を常設化したことに伴う展示となりました。初期のネコ類であるニムラブス科が出現して以来、ネコ類は、ライオンなどのヒョウ亜科やヤマネコなどのネコ亜科などに進化してきました。このコーナーでは、さまざまな化石標本や現生の標本

を用いてネコ類の進化の過程を紹介しています。また、展示の中心となるサーベルタイガーについては、その形態的な特徴からどのような生活をしていたのか、化石が産出したタールピットとはどのようなところなのかなどクローズアップして展示しています。

ご来館の際には、見事なサーベルタイガーの骨格を見ながら、サーベルタイガーが繁栄していた時代の様子にまで思いを馳せてみてください。

（資料課：宮崎淳司）

編集後記

今年、開館10周年記念企画展の準備に始まり、記念誌の出版、記念式典・環太平洋博物館国際シンポジウムの開催と、記念事業が続きあつという間に1年間が終わってしまった気がします。

来年も茨城県自然博物館とA・MUSEUMを、よろしくお願ひいたします。良いお年をお迎えください。（TM）

[交通案内]



常磐自動車道谷和原 IC から20分。
JR柏駅で東武野田線乗り換え、
東武野田線愛宕駅～茨城急行バス
「岩井車庫行き」乗車
～「自然博物館入口」下車、
徒歩10分。



[開館時間]

午前9時30分から
午後5時まで
（入館は4時30分まで）
ペット及び道具等のお持ち込みはご遠慮ください。

ご利用案内

[入館料]

区分	本館・野外施設		野外施設のみ
	企画展開催時	通常時	
大人	720円(580円)	520円(420円)	200円(100円)
高校・大学生	440円(300円)	320円(200円)	100円(50円)
小・中学生	140円(70円)	100円(50円)	50円(30円)

（注）：（ ）内は団体料金（20名以上）

未就学児・昭和13年4月1日以前に生まれた方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。

つぎの日の入館料は無料です。

4月29日（みどりの日） 6月5日（環境の日）

11月13日（茨城県民の日） 春分の日

高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日

（但し、春・夏・冬休み期間中を除きます。）

[休館日]

毎週月曜日（但し、1月3日（月）は開館し、振替休館日はありません。
1月10日（月）・3月21日（月）は開館し、翌日が休館となります。）

年末年始休館 2004年12月27日（月）～2005年1月1日（土）